

2023 / 11 / 9

早稲田大学文学研究科

日本語日本文学コース

(Cultural Sciences Japanese Studies)

秋季コース別相談会資料

ISSN 0389-8636

国文学研究

第百九十七集

新刊紹介 編輯後記	酒井政幸著『芥菜本歌書の研究—兼てその序』	久保水 秀夫	40
高梨素子著『後水尾院時代の和歌』	石澤 一 志	45	
陣野英則著『藤岡作太郎「文明史」の構想—に学び、思う』	陣野 昭 夫	48	
田浦句美子著『望田空穂—その生涯』	家永 香 織	53	
十重田裕一著『穂光利一と近代メディア—歴史から読む』	掛野 剛 史	56	
上野和昭著『名目鈔点本の研究』	高山 倫 明	61	
堀 誠著『日中比較文学の小径—ふしぎ』	河野 貴 美 子	65	
「幻聴」の行方 ——本書は「幻聴」をテーマとして—— 近世における心身の快・不快表現 ——「幻聴」を中心として—— 概数表示の探検と認知における数値の 非均質性・非対称性 ——「幻聴」の探検と認知——	田部 知 季	1	
写生と絵と新傾向俳句 ——俳句の歴史と新傾向俳句——	池上 浩 一	15	
	奥 慶 體	28	

早稲田大学国文学会

『国文学研究』第197集（令和4年11月）

【日本語日本文学コースがめざすもの】

文学の基本は言葉です。日本語日本文学コースでは、日本語とその歴史を探究するとともに、個々の文学作品の特色とその歴史的意義とを幅広く考察します。言葉とは何か、文学とは何かを考究することは、日本文化の本質を理解しようとすることにほかなりません。それはまた、日本という座標から世界を認識し、さらに世界の諸文化とのゆたかな共生をめざす新たな文化を創造する出発点ともなることでしょう。

本コースが目的とするのは、まさにこのような形での、日本語日本文学の研究を通じた明日の文化創造への貢献です。日本の国内外において、日本語日本文学への高度の認識と、その社会への還元力・応用力を持った若い世代を育てることは、世界的な文化情報センターでもある早稲田大学の重要な務めであり、他大学にはない長い教育の伝統と豊富な実績を持った、日本語日本文学コースが果たすべき役割であると考えます。

そうした理念と使命感に立ち、日本語および日本文学全般について、豊かな見識と、専門的な知識を獲得するための技術とを身につけ、それぞれの研究分野・対象のエキスパートを養成することが、本コースの研究教育上の目的です。とりわけ今日では、外国からの留学生を含めて、国際社会など多様な場で活躍できる、高度な学術研究が可能な若手研究者を養成することが、大きな課題になっています。学際的な分野への対応能力（専門応用能力）を培い、修士課程・博士後期課程のそれぞれにおいて、優れた修士・課程博士を育成し、日本文化ひいては21世紀の世界の学術に資するよう取り組んでいます。

日本文学の古典領域においては、上代・中古・中世・近世各時代の研究に対応し、近代・現代領域では明治・大正・昭和・現代文学の研究に対応しています。また、日本語学においては古語から現代語にいたるまでの音韻・文字・語彙・文法・方言など、多岐にわたる日本語学分野研究に対応する体制をつくっています。研究方法においても、実証的な資料調査、本文研究から、最新のメディア・表象理論、文化研究、ポストコロニアリズム等にいたるさまざまな方法に対応できる教員がそろっています。

主として日本文学または日本語学の研究者、国際社会を含めて広く日本文学または日本語学の教育・普及に携わることのできる人材、日本文学または日本語学の高度の専門知識を必要とする編集者、ジャーナリスト、表現者を養成します。アジアを中心とする留学生も多く、それぞれの分野のゼミは、新たな見方・思考が交叉する活気溢れる場となっています。

みなさんにも、こうした日本語日本文学コースの一員として、日本文学・日本語学研究の高い志をもち、日本・世界の文化に貢献する役割を、ぜひ担っていただきたいと願っています。

【研究指導担当教員紹介】(2023年度)

氏名	職名	現在の専門分野
----	----	---------

〈日本語学領域〉

上野 和昭	教授	日本語学
森山 卓郎	教授	日本語学
澤崎 文	准教授	日本語学

〈古典文学領域〉

高松 寿夫	教授	日本古代文学
陣野 英則	教授	日本古典文学、平安時代文学、物語文学
兼築 信行	教授	日本古典文学 和歌 文献学
和田 琢磨	教授	日本中世文学、軍記物語、太平記、絵巻等
池澤 一郎	教授	日本近世文学
河野 貴美子	教授	和漢比較文学

〈近現代文学領域〉

宗像 和重	教授	明治・大正期を中心とする日本近代文学
十重田 裕一	教授	大正・昭和期を中心とする日本近代文学
鳥羽 耕史	教授	日本近代文学、戦後文化運動
坪井 秀人	教授	日本近代・現代文学研究、文化史研究

【大学院日本語日本文学コース配当科目】(2023年度)

*早稲田大学 Web シラバス (<https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>) でご確認ください。検索画面の「学部」の選択項目のなかから「文研」を選び、次いで、「科目管理主体」の選択項目のなかから「日本語日本文学コース」を選び、検索を実行すると、日本語日本文学コースが管理主体となっている全科目の情報が表示されます。上代から近現代文学、日本語学の各分野をカバーして、専任教員および各分野の専門家が担当する非常勤講師による研究指導・演習・講義が用意されています。

【在籍学生数】 2023 年度、() 内は 2022 年度

(領域)	(修士課程)	(博士後期課程)	
日本語領域	3 (1) 人	10 (11) 人	
古典文学領域	19 (11) 人	18 (20) 人	
近現代文学領域	23 (24) 人	18 (20) 人	
合計	45 (36) 人	46 (51) 人	91 (87) 人

*2023 年度の留学生の在籍学生は、修士課程 9 人、博士後期課程 12 人、合計 21 人

【取得資格】

教育職員免許状（専修免許状）

種類： 中学校教諭「国語」専修免許状

高等学校教諭「国語」専修免許状

※中学校教諭 1 種免許状、高等学校教諭 1 種免許状を取得していることなど、取得条件を満たす必要があります。

【留学制度】（博士後期課程）

- ・コロンビア大学との DDP (Double Degree Program)

【修士論文・博士学位請求論文題目】

〈修士論文〉

2022（令和4）年度

○陣野英則

平安中期物語文学における人物の政治性の研究——『うつほ物語』と『源氏物語』を中心に——

○宗像和重

近代日記体小説の研究

芥川龍之介後期作品研究——後期作品に見る「狂気」と「無意識」——

大江健三郎初期作品論——〈性的人間〉の展開と変容——

○十重田裕一

大江健三郎『万延元年のフットボール』論——本文分析と聴き手論を中心に——

川端康成初期作品研究——「新しい文芸」は「死」を語りうるか——

探偵小説雑誌『宝石』の一九四六年——描き出された敗戦直後の日本社会

○鳥羽耕史

安部公房〈ノート体小説〉論——読者の応答可能性に向かって

初期変形譚から見る安部公房の方法——「デンドロカカリヤ」と「三つの寓話」をめぐって——

安部公房の中期作品研究

○坪井 秀人

〈ものさし〉から〈感性〉へ

2021（令和3）年度

○陣野英則

『源氏物語』における「風」

『源氏物語』における「ゆゆし」の力学——美しさと権力をめぐって——

豊子愷訳『源氏物語』の研究

○兼築信行

万葉歌から見る新古今集の選歌意識

私家集の十世紀～『藤原義孝集』を中心に～

○和田琢磨

『宇治拾遺物語』の享受についての研究

鴨長明『方丈記』の研究——その虚構性とパロディー性——

- 高橋敏夫
 - 後藤明生の方法と内部の生成 日常性における歴史的なもの
 - 宮沢賢治の宗教思想——大正一一年以降を中心に——
 - 目取真俊初期作品研究
- 宗像和重
 - 芥川龍之介研究—震災を軸に読む中期・後期の作品—
 - 夏目漱石「夢十夜」論——創作方法を視座として——
 - 芥川龍之介研究——帝国に対する歴史認識をめぐって——
- 鳥羽耕史
 - 〈残滓〉としてのプロレタリア文学
 - 〈単性生殖〉の戦後文学
- 上野和昭
 - 高知市方言とその方言意識究

〈博士学位請求論文〉

2022（令和4）年度

- ・室町時代における『万葉集』享受の研究
- ・現代日本語におけるとりたて副詞の研究
- ・物語文学にあらわれる「物語」——『源氏物語』を中心に——
- ・谷崎潤一郎研究——古典回帰と「観光のまなざし」——
- ・歌合の表現論的研究—村上朝前後—
- ・現代日本語における程度表現の展開

2021（令和3）年度

- ・上代漢文学と律令国家
- ・『日本霊異記』の作品論的研究

2020（令和2）年度

- ・私家集とその編纂意識の研究
- ・紀貫之と屏風歌の展開
- ・院政期仁和寺文化圏における和歌活動の研究
- ・島崎藤村研究
- ・近世遊里文藝の研究

【修了後の進路】

修士課程

博士後期課程進学、中学・高校教員、教育関係、ジャーナリズム、一般企業など

博士後期課程

大学・短期大学教員、中学・高校教員など

【入学試験】

- * 日本語日本文学コースが実施している入学試験
- * 出願資格などについては、事務所にご確認ください。

〈修士課程〉

- ・ 一般入学試験
- ・ 推薦入学試験（学部生推薦入学制度）
- ・ 論文特別選抜試験

出願資格

早稲田大学文化構想学部・文学部の「卒業研究・ゼミ論文・卒業論文」、もしくは早稲田大学（学部）に提出したこれに類する論文に限る。

- ・ 一般科目等履修生入学試験

〈博士後期課程〉

- ・ 一般入学試験

【早稲田大学国文学会】

- ・ 早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース、教育学研究科国語教育専攻／教科教育学専攻など、所属を横断した早稲田大学国語国文学研究者、在学生、出身者などによる研究会。
- ・ 大会の開催、機関誌『国文学研究』の発行など、活発な活動を展開し、学術成果の報告と会員の交流の場となっています。

【問い合わせ・相談窓口】

ホームページ「日語日文」

<http://www.waseda.jp/bun-nihon-go-bun/>

日本語日本文学コース室

39号館5階2519研究室

平日（2023年度は月曜を除く）午後開室 講師・T Aが在室

メール：wnichibun@gmail.com